

人生100年時代の楽しみ方

第16回

墓じまいについて考える

篠原 克周

フリーランスライター

ロンドンビジネススクールの教授、リンダ・グラットンが著した本『LIFE SHIFT — 100年時代の人生戦略』が注目され、日本でも「人生100年時代」という考えが知られるようになりました。みなさんは、もし100歳まで生きるとしたら、どんな人生を送ってみたいですか。ここでは、人生100年時代を楽しむための、ヒントやアイデアを探ります。第16回のテーマは「墓じまいについて考える」です。

●墓じまいと改葬の違いを理解しておこう！

お墓を継承する人がいなくなる——。そんな声がちらほら聞こえてくるようになりました。そもそも墓参りは、ご先祖や亡くなった家族の供養をして一族の繁栄を願うものであり、お墓は、代々その家の子どもたちが受け継ぎ、大切に守っていくものと考えられてきました。

ところが、都市部への人口集中と地方の過疎化、核家族化や少子化などで、家族の関係が変化し、出生地と居住地が異なる人が増えてきました。墓のある実家の近くには兄弟姉妹、親戚もいない。

お墓が遠くて交通費が大変だったり、年を取って体の負担が大変だったり、「墓を守ることも、定期的にお墓参りをするのも難しい」という状況が出てきたのです。

そんな背景もあり、実家の「墓じまい」（廃墓）を考える人が増えてきました。墓じまいとは、お墓の中の遺骨を取り出し、墓石を片付けて、敷地を更地に戻し、その使用权を寺や墓地の管理者に返還することを言います。墓じまいの際には「改葬」、つまり「お墓の引っ越し」を行うことが多いです。一般的には「墓じまい＝廃墓＋改葬」をセットでイメージするかもしれませんが、墓じまい後の対応は実は様々です。

よく行われるのは故郷の墓を閉じた後、近親者の現住所近くの寺や霊園に「新たな墓」を購入するケース。もしくは合同墓地や共同の納骨堂と契約して永代供養墓に移すパターンです。墓じまいは、お寺に払う「離壇料」が発生することも覚えておいてください。もう一点、気をつけたいのが「改葬」には手続きが必要だということ。遺骨は勝手に移動できないのです。

●海洋葬や樹木葬など散骨による供養について

最近では墓じまいに関連し、様々な業者が多様なサービスを提供するようになってきました。ある通販会社では、墓じまいのパックを販売しており、手続きの代行から墓石の解体・撤去までをワンセットにして全国一律で提供しています。また、墓じまい後、改葬せずに海や山などに「散骨」する人たちも増えていきます。散骨は、墓石や法事などの費用を抑えられるので、経済的にはかなりメリットがあると言えます。

通常の埋葬と異なり、散骨する際は、遺骨を洗



浄してから乾燥・粉骨しなければなりません。それらを請け負い、海洋葬ならクルーザーなどで西洋まで行き、セレモニー（故人を弔う儀式を司会者が行う）まで行う業者もあります。そのほかにも、景色の良い山へ散骨する方法や、ヘリコプターに乗って上空から海上へ散骨する方法など多種多様です。散骨の場合は、法律や規制があるので専門の業者に依頼することをおすすめします。

もう一つ、散骨に関して注意すべきことがあります。それは遺族や親族がどこにお参りすればいいかわからなくなることです。これを解決する策として、散骨する際に遺骨の一部を残し、置物などに入れて身近に飾ったりペンダントにして身につけたりする「手元供養」を提供するサービスなども登場しています。

●墓じまいのトラブルを避けるためにできること

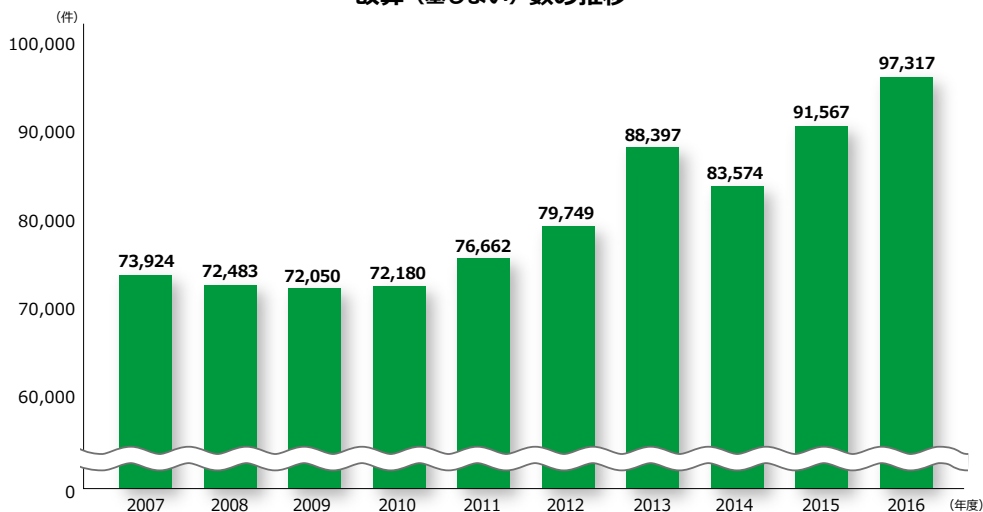
ちょっと身も蓋もないですが、信仰や心情面を抜きにして墓じまいを考えるなら、経済的な負担が少なくなるのはメリットだと思います。檀家から離れ、散骨などすれば、葬儀や法要の際に、僧侶に渡す「お布施」（供養、読経、戒名料）が必要なくなり、維持費・管理費も渡す必要もなくなるわけですから。しかし、先祖の墓が無くなることへの寂しさや不安、罪悪感がよぎる人は、よくよく考えた方がいいと思います。

一方、墓じまいを行う人たちが増えてくるにつれ、新たなトラブルも発生しています。まず多いのが親族間のトラブルです。廃墓した後、散骨をするのか、改葬するのか、墓を移すなら兄弟間で誰が継ぐのかなどで揉め、諍いが起きてしまうのです。こういうことは、兄弟の誰かが独断で進めたのがきっかけになるので、事前にしっかり親族間で話し合うことが大切です。

次に多いのは、墓のあるお寺とトラブルになるケース。墓じまいのことを切り出した途端、住職が機嫌を損ねてしまったりなどで、少々厄介です。中には埋葬証明書へのサインを渋られたり、高額な「離壇料」を求められるケースもあるようです。「離壇料」は様々で、相場は5万円から10万円ほど。極端な場合だと、数百万円を要求したり、お墓の解体費で法外な金額を請求してくることもあるとか。寺院墓地の場合、日頃のお付き合いが良好かどうかも大きな鍵になるようです。

ちょっと大袈裟なトラブルのケースを紹介しましたが、最近はお寺側の考えも変わり積極的に墓じまいをする所もあるようです。お寺側としても親族と連絡が取れず放置状態になるのを防ぐためなんだとか。墓じまいをするかしないか、どちらにしても、実際にたたんでしまう前に、お寺や親族と十分に話し合いを重ね、後悔しないよう、しっかり検討してください。

改葬（墓じまい）数の推移



厚生労働省「埋葬及び火葬の死体・死胎数並びに改葬数、都道府県-指定都市-中核市（再掲）別」をもとに作成